

米づくり情報 第5号

令和6年7月30日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(7月30日)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	年次	品種					
6月18日	夢しずく	本年	74.3	342	11.6	40.1	【気象】 7月23日～29日まで ◆平均気温…平年より2.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比151%) ◆降水量…少ない(平年比0%) 【生育】 ◆草丈 「夢しずく」でやや高い、「ヒノヒカリ」 「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で 少なく、「ヒヨクモチ」が多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」で平年並み、 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」でやや進んでいる。 ◆葉色 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」で やや濃く、「ヒヨクモチ」で濃い。
		平年	72.5	420	11.5	39.1	
		平年比(差)	102	81	+0.1	+1.0	
	ヒノヒカリ	本年	71.6	496	11.9	41.5	
		平年	66.4	546	11.5	40.0	
		平年比(差)	108	91	+0.4	+1.5	
6月20日	さがびより	本年	69.8	478	11.5	40.9	
		平年	63.3	535	11.6	39.9	
		平年比(差)	110	89	-0.1	+1.0	
	ヒヨクモチ	本年	64.6	887	12.3	42.8	
		平年	58.2	824	12.1	40.7	
		平年比(差)	111	108	+0.2	+2.1	
留意点	○「夢しずく」は7月28日(平年並み)に幼穂形成期を迎えており、穂肥診断に基づき追肥を適正に施用する。 ○中干しが終わった圃場については、今後は間断灌水を行う。 ○病気や害虫の発生に注意する。農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、“田まわり”を行的確な防除を行う。						

- 注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期5/24、播種量 湿粃 180g/箱)
 「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期5/27 播種量 湿粃 180g/箱)
- 2)栽植密度:「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm, 19.6株/m²(65株/坪)
 「さがびより」は、条間30cm×株間20cm, 16.7株/m²(55株/坪)
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm, 22.2株/m²(73株/坪)
- 3)栽培管理:施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
- 4)概況欄の【草丈】、【茎数】の平年値との比較については、以下のように定義している。
 低い(少ない):94以下、やや低い(やや少ない):95～98、平年並み:99～101、
 やや高い(やや多い):102～105、高い(多い):106以上。
- 5)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年次を対象にした、各項目の単純平均値。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品種	基肥	中追	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	実肥
夢しずく	3.0	0.0	2.0(7/31)	—	—
ヒノヒカリ	4.0	2.0(7/9)	3.0	—	—
さがびより	5.0	0.0	2.0	—	—
ヒヨクモチ	4.0	3.0(7/12)	4.0	1.5	1.5

※括弧内の日付は農試作況圃場における施用日

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/28(±0)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	未	8/4	未	8/27
さがびより	未	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	未	8/14	未	9/5



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

1. 6月23～24日頃(図では6月23日)、7月1～2日(図では7月1日)、7月10～11日(図では7月10日)の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月19日以降は平年値)に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

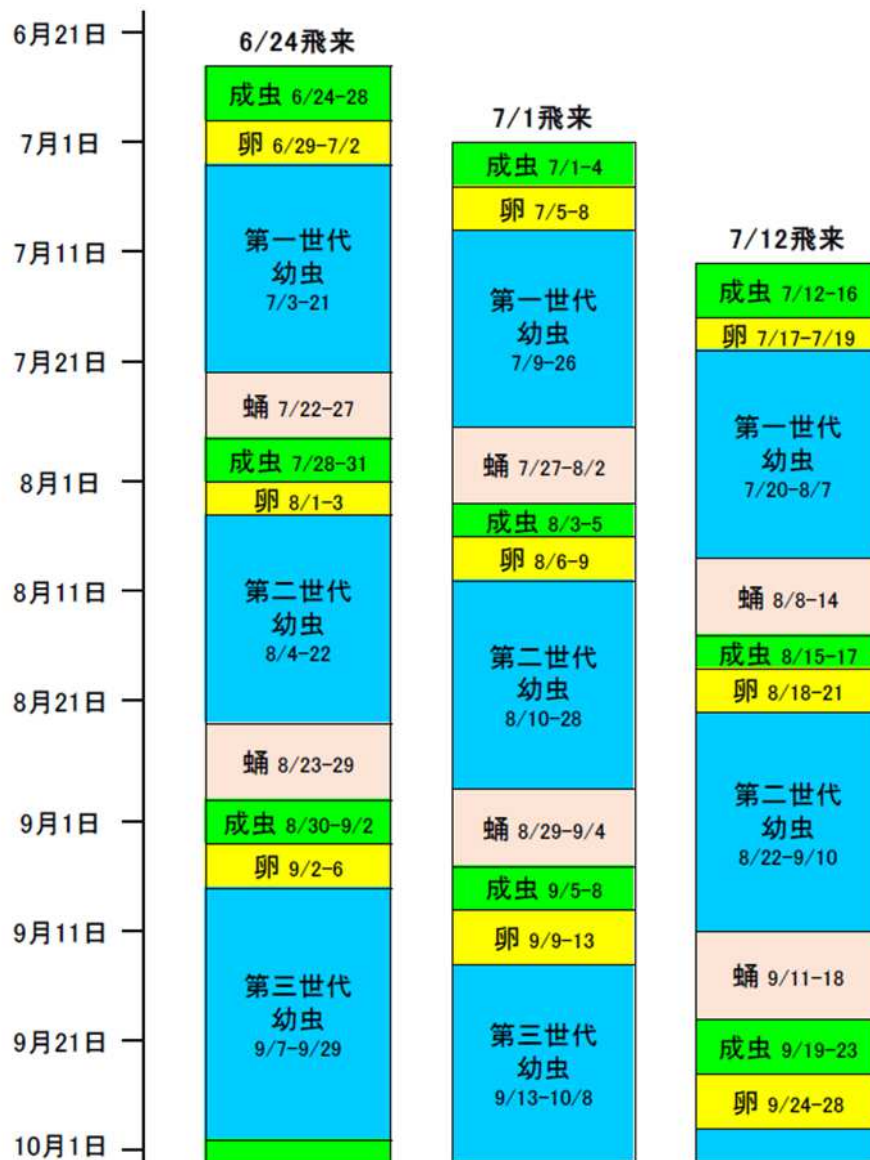


図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2024年7月19日作成)

1. 6月24~27日頃(図では6月24日)、7月1~3日頃(図では7月1日)、7月12~15日頃(図では7月12日)の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ(7月19日以降は平年値)に基づき作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)よりご確認ください。

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

令和6年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

